



ビジネスアスリート

TiMS代表 LLPヒューマン・アセット・マネジメント代表 玉坪郁子



現在、FWN交流会という女性経営者の会の会長をしている。会員数は20名弱。創設は1992年で20年近い歴史がある。今年度のテーマは「情報発信」で、まず全員にブログを開設してもらい、夏にはiPadを配布。各自の会社のケーススタディに加えて、iPad活用方法、社長のメイク等、寛容な先輩方のお影でやりたいことをやらせていただいている。

12月5日には、皆で遷都1300年の奈良の地に行ってきた。メンバーの一人が、「奈良マラソン」のフルマラソンにエントリー。その応援と忘年会を兼ねての奈良見物だ。

まずは5キロ地点の沿道で待ちかまえる。先頭ランナーが来た！・・・が、その後が続くあのランナーの数は何なんだ！完全に私の予習不足だ。（後で調べたところ、奈良マラソンは、「フルマラソン」1万人、10キロ、5キロの「大仏マラソン」7千人規模の大会。）

予備知識の有無はともあれ、沿道に立ち、川のようなランナーの流れの中から一人のランナーを見つけ出す、見逃さない。これは至難の業。走り過ぎてしまう奇跡的ともいえる瞬間に一人が彼女を見つけ、大声で名前を呼ぶ。本人が振り向きながらサングラスを外してキラキラした笑顔を見せてくれた。よかったあ！これで一安心。

後は、「ならまち」をぶらぶら歩き、「春鹿」さんで利き酒をして、重要文化財「今西家」の見学をして、昼食をいただいて、さらにその後散策と「ラ・テラス」でのティータイム。こうやって贅沢な時間を費やしたあと、マラソンコースのゴール近くで、再度応援の待ち伏せ。こんなにいろいろなことのできてしまう長時間、ずっと自己と戦い

ながら走り続けるマラソン。過酷なスポーツだ。

2度目の待ち伏せには、横断幕と名前入りの「うちわ」もスタンバイ。今回は無事双方からお互いを発見。彼女の雄姿は本当にカッコよく、感動した。走った彼女も「自己新記録が出た。みんなの応援で元気が出た。」と言ってくれた。万事うまく運んだ。有意義で、奈良の魅力をぐっと身近に感じる一日になった。

私はマラソンはしないが、リズムミックボクシングという格闘技（系？）のトレーニングをしている。「仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか」（幻冬舎新書 山本ケイイチ著）にあるように、なんでもお金と効果的な薬や装置でなんとかする時代であっても、鍛えた肉体はお金では買えない。美しい筋肉はすぐにはつukれない。「『生命』や『身体』に関するものは、すべてプロセスを省略することができない。」その短絡的でない点は、かえって信頼に値する。

「シャープでタフな精神と、鍛えられた筋肉を備えた『ビジネスアスリート』」というのを、実は目指している。

プロフィール

TiMS代表、LLPヒューマン・アセット・マネジメント代表。

特定社会保険労務士、産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント、ファイナンシャルプランナー（CFP）。

大阪府社会保険労務士会理事、同中央支部常任幹事、事務局長。中小事業家同友会中央ブロック西支部。FWN交流会会長。